

## 学校現場で実習 教育実践研究を紹介

熊本大学教職大学院では、授業の中で理論を学び幅広い知識を身につけます。それを学校における実習で実践し、理論に立ち返って振り返り、次の実践に活かします。理論と実践の往還を図る中で、より専門性を高めていきます。教育実践力の高度化を図るために、連携協力校での実習はとても重要です。



大学院1年生では、現職院生は年間120時間、ストレートマスターは年間160時間の実習を行います。ストレートマスターは、生徒指導、授業実践、学級経営について学びます。連携協力校で授業を参観したり、実際に授業を行ったりしながら、授業力を高め、児童生徒とのかかわり方を学びます。教育実習より、じっくり児童生徒と触れ合います。写真は、城東小学校で実習する中村さん。

大学院2年生では、年間240時間の実習を行います。自ら設定した課題解決に向けて、実践、検証し、有効性のある提案を見出していきます。一单元すべての授業を行ったり、先生たちと取組を促したり、長期的な実践を通してじっくり課題解決に取り組めます。さらに、ゼミの中で担当教員と相談しながら、よりよい課題解決を目指します。写真は、めのだけ小学校で実習する古江さん。



## 研究報告書公開

熊本大学教職大学院では、学習指導や生徒指導などにかかわる自己課題を発見・分析した上で、実習校の課題解決に向けて実践研究に取り組めます。担当教員の指導のもと、実習、講義、教育実践研究などの、実践と理論の往還を通じた学びを報告書として完成させたものを公開しました。QRコードを読み取りご覧ください。



### P1院生による授業紹介

#### 学級経営の実践と課題

学級経営は多様な個性をもった子どもたちが集団として、学びを進めていく基盤であり、現場経験の中でその重要性を強く感じていました。

学級経営は、特に教師の実践力が求められるため、実践と課題について学び続ける必要があると考えています。

講義では、グループダイナミックスの理論や具体的な事例について現職とストレートマスターがこれまでの経験や様々な講義で学んだことを出し合う中で、自らの学級経営における考え方や具体的な実践について、学びを深めていくことができます。また、理論をもとにこれまでの自らの学級づくりを見直す機会となっています。



(P1 北 慎一郎)

### P2院生による研究紹介

#### 「学びをつなげる」児童を育てる算数科授業の創造

私は、算数科を学ぶことのよさを「学習したことを思い浮かべ、関連・発展させながら、身の周りの事象を観ることかかできたとき」に感じる事ができると考えています。しかし、これまでの授業では、日常と授業、授業と授業を上手くつなげられていなかったと思います。そこで、現実に近い文脈の中で取り組む、パフォーマンス課題を位置付けた単元開発や一枚ポートフォリオを用いた自己評価を通して「学びをつなげる」ことを目指しています。今後も児童が、学ぶことのよさを実感できるような実践を行っていきたくです。



(P2 古江 昂志)